

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



21世紀のスタートです
ボランティア国際年の今年
GENの活動も
10年目をむかえました
今後ともよろしく
お願いいたします

中国ではカササギは縁起の良い鳥といわれ、人びとに大切にされている(撮影=橋本紘二)

Contents

黄土高原に緑を!	P 2
●石弘之さん講演『21世紀の地球環境問題』	P 4
春のワーキングツアーご案内	P 7

2001.1

77

黄土高原に緑を！

～21世紀に夢の実現をめざして

武春珍（緑色地球ネットワーク大同事務所所長）

新しい世紀とともに、緑の地球ネットワークは成立から10年目を迎えたそうです。私は緑色地球ネットワーク大同事務所を代表し、また私個人としても、心からのお祝いをいたします。そして会報「緑の地球」を通じて、かつて黄土高原緑化協力活動に参加した友人と、会員のみなさんに新春のお祝いの気持ちをお伝えいたします。

10年というのは、人類の長い歴史のなかでみれば、一瞬のことです。しかし、この10年のあいだに、みなさんとの協力を通じて、私たちは非常に有意義なことを実現しました。黄土高原の上に、1,000万本もの樹木を植えたのです。これらの樹木は、大同市の4区7県に遍く広がり、黄土高原東部の丘陵地に緑の装いをさせました。もちろん黄土高原の生態環境を変えるには遙かに遠いのですが、もしこれらの樹木を4m間隔に植えたとすれば、私たち

の樹木は地球を1周することができます。

このようなことからいえば、人類が暮らしている共同の星の上に、たいへんきれいな一筆をおろしたことになりますし、私たちの緑化協力が新世紀とともに、新しい発展段階にはいったことを意味していると思います。

1つひとつの地球環境林をみるたびに、1つひとつの小学校付属果樹園をみるたびに、立花吉茂先生、遠田宏先生、高見邦雄さん、そして太田さん、東川さん、富樫さん、お年寄りの石田さん、干場さん、そして上田さんの小さなお子さん……、1人ひとりの見慣れた姿が目の前に浮かんできます。

ここのどの緑陰にも協力団の足跡があり、ここのどの樹木も協力団の流した汗の凝縮であり、ここのどの枝にも私たちの友好協力の深い思いが含まれています。私たちはずいぶんと苦勞を

重ねて、いまようやく収穫の時期を迎えつつあります。私は、たくさんの方の援助を蒙ってきた友人のみなさんに、深い敬意と感謝を表します。



21世紀は、人類の美しい夢が充満した世紀だと思います。そして人類がどのような方向に発展しようと、緑は決して欠かすことのできない主な流れです。黄土高原の気候は劣悪で、水土流失も深刻であり、植樹造林の任務はまだまだこれからです。新しい世紀のなかで、より多くの友人のみなさんが緑の地球ネットワークに参加され、より多くの協力団が大同にこられ、山深い農村の人たちといっしょに、黄土高原を緑にする夢を実現されることを、私は願っています。

友人のみなさんが新春を愉快にすごされるよう祈ります。

2000年12月26日

写真展『中国黄土高原～沙漠化する大地と人びと』

ボランティアスタッフ大募集！

橋本紘二さんの写真集の刊行が決まりました。大同に6年間通って撮りためてきた力作の数々が、A4版という大きなサイズで迫力のある写真集になります。東方出版から、『中国黄土高原～沙漠化する大地と人びと（仮）』のタイトルで2月中旬～下旬に発売の予定です。ちょっと高価になりますが、



「たくさんの方の手に買ってもらえるような小さな本にしようか」と悩んだすえに「やっぱり大きなサイズじゃないと伝わらない」というのが出版社の決断でした。お買い求めいただければ一番なのですが、そうでなくても、図書館に購入希望を出すなどしていただければ幸いです。

また4月1日から8日までJR京都駅で橋本さんの写真展が開かれることになりました。GEN10周年記念イベント第1弾でもあります。

みなさんにご来場いただきたいのはもちろんのこと、会場スタッフのボランティアを大募集しています。ツアーシーズンで事務所を留守にできないため、写真の解説

や、GENの活動を説明する要員が足りません。事前ガイダンスをおこないますので、ツアー参加経験者のみならず、大同に行ったことはないけれどやってみようかな、という方も大歓迎！ GEN事務所までご連絡ください。

「写真報告『中国黄土高原～沙漠化する大地と人びと』

●主催：京都駅ビル開発（株）／緑の地球ネットワーク

●期間：4月1日（日）～8日（日）10時～17時

●場所：JR京都駅南北自由通路インフォメーションプラザ

ご寄付

富士ゼロックス端数倶楽部と、富士ゼロックス（株）より、それぞれ20万円のご寄付をいただきました。ありがとうございました。

植物を育てる (9)



立花 吉茂 (GEN代表・花園大学教授)

里山は復活できるか

●里山はどうなる？

里山復活論がでている。もともと里山は原生林を切り払ったあとの二次林である。西日本の照葉樹林のような原生林は暗くて利用しにくい。そこでアカマツ・コナラ林のような利用しやすい二次林に手を加えて里山とした。現在のように里山にすら入らない状態ではこの維持は大変むずかしいだろう。遷移が起こって樹種が増え、原生林へと戻っていくだろう。しかし、それにはずいぶん長い年数がかかるはずである。その長い年数のあいだには、人による干渉や山火事など思いもかけぬ事故が起こって、いびつな森林になるかもしれない。

農業を営むために利用した里山が農業形態の変化で手入れをしなくなったのであるから、農業形態が元のようにならない限り里山は復活しない。町に住む者が定期的に入りに行ってそれもそれは長続きはしないだろう。山や森林

相手の仕事は、気の遠くなるようなゆったりした活動であるからである。

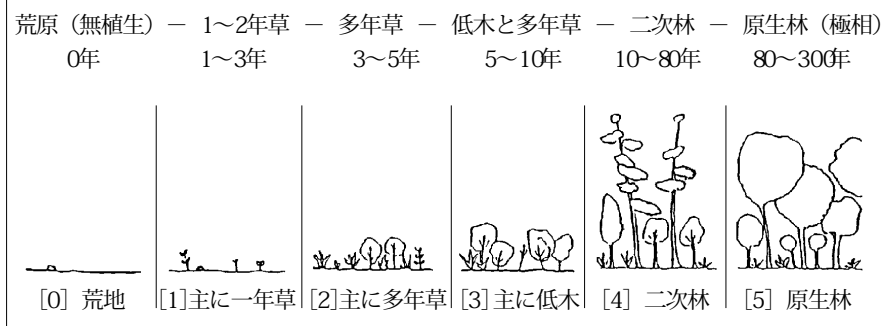
●自然か、手入れか？

環境林と言われる緑地は自然林を残したり、若干補植をしたりした場所が多い。筆者の住む近くの枚方市の香里団地には自然林(アカマツ・コナラを優占種とする二次林)が公園として保存されている。20年以上も観察しているが、遷移はすすんでいない。それは、公園であるから頻りに人が立ち入るた

めである。元里山はこうはならないだろう。ほとんど人が立ち入らないからである。公園の場合、樹木が枯れたり倒れたりすれば補植される。元里山の場合、補植よりも間引きが必要になるかもしれない。

造園学には修景という言葉がある。これは文字通り景色の補修である。里山は完全に自然で放置する場所と、修景的な場所とにわけて保全を図ることが現実的であろう。

遷移の模式図



自然植物園の土地をめぐる問題

池本 和夫 (東京都)

2000年夏のワーキングツアーの後、霊丘県に1人で滞在された池本さんから、寄稿いただきました。ツアーだけではなかなかわからない農村の事情や現地のスタッフの苦労が伝わってきます。一方的にどちらかの言い分を押し通すのではなく、双方が納得できる方法を模索しながら協力をすすめていきたいものです。

2000年夏のワーキングツアーの後、霊丘自然植物園責任者の李向東さんから管理上の苦労話を聞く機会があった。

植物園は南庄村から土地86haの100年間の使用権を緑色地球ネットワーク大同事務所名義で購入して県政府の役所に登記し、1999年3月27日に起工式をした。いま、村民とのあいだに墓と立木の個人所有権のふたつの問題をかかえている。

私が行ったとき、最近埋葬した新しい土饅頭(土葬の墓)が植物園の中心地にできていた。村民は以前から現在の植物園用地内に埋葬していて、自分

たちの土地だと考えているので、一方的には排除できない。

ある村民が「植物園は使用権を村から買ったが、自分が植えた木は自分のものだ」と所有権を主張している。植物園の立木は契約の際すべて買い取って、問題を片づけたのに、その人はまだ折にふれてむし返してくる。

墓は南庄村民委員会(代表は村長)が契約書に明記しなかった、立木は代金支払い済みで村民委員会と村民とのあいだで解決すべきだ、しかし村長にはその能力がなく大同事務所の問題が持ち込まれている、と李さんは言う。

日本は明治以降、土地の権利関係を登記させて明確にした。入会地など所有のあいまいな土地を国有地にし、国民に新しい土地の観念を植え付けた。使用権者の明白な“他人”の土地に“勝手”に埋葬するなど、日本では考えられない。

中国では土地の所有権は国家に、使用権は農民などにある。土地登記制度はないが、使用権は役所に登記する。しかし、農民は放牧や柴刈り、埋葬など、所有権や登記と無縁の入会地的利用をしてきたし、取れるものがあればどんな遠い山でも行く。標高差700mの登りに3時間半もかかった自然林ですら人の手が入っていた。だから、土地の使用権を購入し登記しても、問題が一挙解決とはならないのだ。土地をめぐる村民の思惑は非常に複雑で、日本の常識で単純な類推はできない。

石弘之さん講演会 21世紀の地球環境問題

中国の環境破局と日本

昨年11月29日、石弘之さんの講演会をクレオ大阪西のホールで開催しました。300名あまりが参加し、なかでも若い人たちの参加がめだちました。スライドなどもまじえて、イメージしやすいお話でした。講演後の質疑応答も白熱して、中国の環境問題に対する関心の高さを感じました。中国の1人っ子政策からアジアの男女比のアンバランス、日本の木材輸入や河川・海岸の乱開発についてなど、印象的なお話がたくさんあったのですが、紙面に限りがあるので、中国の現状と環境問題についてふれられた部分を中心に講演内容を要約しました。(文責=編集部)

●世界の5人に1人は中国人

中国は人類がつくりあげた最大の国です。12億6,500万人ですから日本の約10倍。世界人口の5人に1人は中国人で、東京都と同じ1,100万人が毎年、増えています。この国の環境がもし破綻をきたしたら、隣の日本は大変です。たとえば酸性雨。酸性雨は大きくわけて硝酸の雨と硫酸の雨がります。硝酸の雨は自動車の排ガスが大きな原因です。硫酸の雨は火力発電所が原因になっている場合が多く、日本国内で降る硫酸の雨の約5割は中国起源ではないかといえますから、それだけでも中国と日本は密接な関係があるし、中国の環境が破綻すれば日本も大きな影響を受けるわけです。

中国は世界人口の21%を世界の耕地面積の7%で養っています。1949年の中華人民共和国成立まで中国の人口は4億から5億でしたが、その後着実に増えました。ところが1959年から61年の大災害期に、当時の人口は約5億7千万でしたが、2,600万人が餓死しました。4,000万人以上死んだという研究者もいます。そのあといきなり出生率があがります。災害で子どもが生まれなかったからその直後にみんな生むわけです。これが今日の中国の人口問題になっています。

●中国の人口問題の原点

この大災害期の原因は、大躍進政策です。まず、鉄鋼を増産するといって、各地に土法という小さな溶鉱炉をつくらせた。全国で5万か所といいますが、その燃料のために大量の木を切った。

それから人口を増やした。口は1つだけど手は2つだから、両手を使って働けば1つの口ぐらい養えるといっていて、生めよ増やせよとやったわけです。

もうひとつは農業です。たとえば山

西省の大寨というところで、山をてっぺんまで段々畑にした。ところが木がなくなったから、土壌浸食で畑が崩れてしまうようなことが続きました。

大躍進政策でまず木がなくなり、それから人口が急激に増える。そのあと文化大革命で何百万という人が犠牲になり、中国の発展は20年おくれたといわれます。

いま、中国の環境も人口も、ほとんどその動きからの負の遺産です。大災害期あと人口が増えて、やむなく78年から今度は1人っ子政策。現在中国の人口増加率は1%をわりました。世界が約1.4%ですから、0.9%というのは大変低い。いわば中国のおかげで、世界の人口増加はだいぶ緩和されました。世界人口はいま60億5,000万ぐらいですが、本来なら64億ぐらいになっていたはずで、その差は、中国が過去20年間、強烈な人口政策で押さえ込んだことが大きいんです。

中国の人口問題で今後深刻なのは高齢化です。65歳以上の人口が1億8,000万、日本の全人口より多い。これからさらに加速します。北欧で約130年かかった高齢化(65歳以上の人口が全人口の7%から14%に倍増すること)を日本はわずか20年で突っ走っています。これから中国は1人っ子政策のために、この過程を十数年で進めるわけですから、2020年~30年ごろにはほとんどない老人大国になります。

●高度経済成長のわな

問題に拍車をかけるのが高度経済成長です。巨大デパートや高層ビルがあちこちにでき、都市では一晩中ネオンサインや電気がついてます。中所得者層のカラーテレビの普及率は100%を超えました。洗濯機は90%、冷蔵庫



は75%ほどです。エアコンは約15%ですが、あっという間に普及していくでしょう。

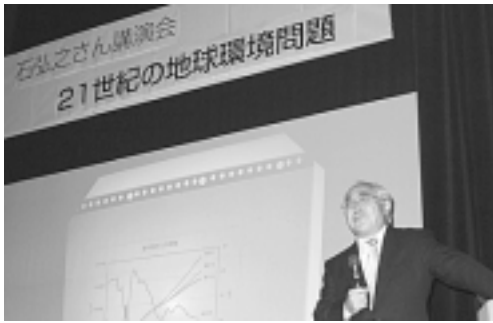
それから車は過去20年間で14倍に増えました。北京は10年前は朝晩何十万台という自転車の列だったのが、いまは車の大渋滞です。そのかわり1日中空がどんよりとスモッグで曇っています。

なにしろ13億人が、199年以降平均で10%の高度成長を続けているんです。日本の高度経済成長期でも10%をこえた年はありません。当時、日本の人口は1億人ほどでした。その10倍が年率10%という経済成長にむかって走るのは、莫大なエネルギーと水や木材などの資源が必要でしょう。大変なことがいま中国でおきているのです。よくて人類の壮大な実験でしょうし、悪くいえば、一種の暴走としか思えません。

問題は私たちが「僕らはもう自動車をいっぱいもっている。でも、大気汚染やゴミの山が大問題だ。あなた方が同じ道をきたら大変なことになるから、このはしごを登ったらいけない」と言っていて、「われわれは空が汚れるくらい車が欲しいんだ」と思っている彼らを上から蹴落とすことができるか、できませんよね。

●環境難民が日本海を渡る?

私はこの初夏に国会で、近い将来日本の最大の危機として何が考えられる



かという証言を求められたときに、一番考えられるのは中国の環境破綻ではないかと話しました。中国は大災害期、大量の難民を出して、北は黒龍江を越えて旧ソ連に流れる、南はインドシナに流れ込んだ。周辺の国もパニックになったわけです。

当時の日本はまだ貧しく、難民は日本には来なかった。ところが今後、日本ではお金がうなっている、かたや餓死寸前となれば、何百万もの人が小舟で殺到するかもしれない。そのときに日本海岸に自衛隊と警察官を並べて発砲する、なんてことは、いまの社会では無理ですね、などと話しました。議員先生たちはきょんととして聞いておられました。2、30年以内に、それに近いことが起きないともかぎらない。

●アジアの森林、中国の森林

アジア各国の森林の被覆率をみると、なんと韓国が日本を抜きました。韓国が最初に森林を失ったのは、関東大震災です。東京、横浜を復興するために、朝鮮半島の木を日本が切ったといえます。次に第二次世界大戦、さらに朝鮮戦争でやられて、朝鮮戦争が終わった時には朝鮮半島の森林は20%を割ったといわれます。そこで韓国は一生懸命に木を植えて、ついに70%を超えました。

中国は政府の公式発表では14%ですが、よくて10~12%で、8%ぐらいだろうという専門家もいます。

中国は基本的に森林の少ない国です。4,500年の長大な歴史のなかで、秦の時代から明、清に至るまで繰り返し森林保護令を出しています。それだけ森林が守られてこなかったということでしょう。畑や家やお墓をつくるなどさまざまな理由がありますが、大きな1つは中国特有の巨大建造物です。

代表的なものが万里の長城です。最初は日干しレンガでしたが、明代以降は焼いたレンガです。あの長城のレンガを焼く薪の量だけでも莫大です。

もうひとつは気候です。

中国内陸部では、雨はほとんど夏に降って、秋から春までカンカンに乾く、そういう気候が多いわけです。そんなところでは1度森林を破壊すると砂漠になってしまう。ゴビの砂漠は羊がつくったといわれるのは、人為的な影響ということです。

それから中国は常に食糧が不足してきました。そのために開墾がずっと国是で、ひたすら木を切ってきた。

●森林破壊によって起きること

森林破壊が進むと何が起きるか。ひとつは気候が変わってしまいます。たとえば、アマゾンの奥地で木を切るとたちまち雨が降らなくなる。アマゾンは3,000~3,500mmも降りますが、1平方km焼いてしまうと一気に雨が減って、1,500mmぐらいになってしまいます。

雨というのは、地上の森から水が蒸発して空に上がり、上空で冷えてまた落ちてくるキャッチボールです。キャッチャー役の森がなくなれば、ボールは返ってこなくなって乾燥してきます。ですから森林破壊と気候の変化は大きな関係がある。

逆の例もあります。アラブ首長国連邦では、石油を使って海水を淡水化し、それで木を育てて、アブダビ、ドバイは2割近くを植林しました。すると雨が降り始めて、夏に50℃近かった気温が数℃下がったといえます。逆転の好循環ですね。

第2に、森林がなくなると野生動物が減ります。いま世界中の動植物が、年に1万種ともいわれる急激な勢いで減っています。森林をなくすことは森林に棲むさまざまな動植物を私たちが抹殺していることになるのです。

3つめは山火事が増えます。最近では97年、東南アジアでもすごい山火事がありましたね。同じことがいま世界各地で起きています。

中国では198年、大興安嶺で45日も

つづく大きな森林火災があり、720万ha、北海道ぐらいの面積の森林が失われました。史上最悪でしょう。残っていた中国の森林の3分の1です。後から調べてみたら伐採でスカスカになり、乾燥して火がつきやすくなっていました。このように、伐採が入ると森林火災がふえます。

火の次は水です。中国はひんぱんに洪水に見舞われています。1998年に長江で史上最悪という洪水が起きて、日本の人口の2倍近い2億2,300万人が被災しました。

上流の森林がなくなると、土が河川に流れ込み、下流で流れがゆるやかになると泥が沈んで底にたまり、天井川になってしまいます。大雨の時なんか、1か所堤防が切れたら大変なことになります。中国の河川の8割までがそういう状況にあるといわれます。

中国の森林不足の深刻さを表すものに、棺桶自粛運動があります。NHKの『大地の子』で、おじいさんが立派な棺桶を前に、自分はここに入るんだといばるシーンがありましたね。中国人にとって棺桶はそれぐらい大切です。中国では年間1,000万以上の人が死にます。その1,000万の棺桶をつくるために100万立方mの木が必要ですから、棺桶をやめようといいはじめた。

そういうなかで中国でも、森林こそ環境の要であるという意見が出てきました。今年の春、中国は環境関係の法律を大改正して、予算も4倍にして、本気でやる構えのようです。そこまで追いつめられたということでしょう。

●中国の食糧問題

もうひとつ大きな問題は、食糧です。中国の食糧生産量は着実に伸びてきました。90年ぐらいまでは食糧の輸入国でしたが、92年に初めて輸出が上回り、それ以降おむね好調です。今後はわかりませんが、少なくとも90年代に入って食糧事情は好転したといえます。

原因は農業生産があがったからです。

なぜ生産があがったかという、ひとつはハイブリッド品種など、収量の高い新品種を導入した。2つめは灌漑を増やしました。3番目は肥料です。

特に灌漑が進んだことが90年代の食糧生産の好転に寄与したわけですが、問題は、灌漑をすると水が減ってきます。まいた水は一部は戻りますが、多くは地面にしみこんだり2度と使えない水になったりするわけです。

小麦を1トンつくるのに水1,000トン必要だといわれています。お米の場合は4,000トンです。穀物というのは実は水のかたまりなんです。大增産が成功したということは、その陰で、水を失ったということでもあります。

特に黄河。中国第2の大河で、歴史的には洪水を繰り返す大変な暴れ川でしたが、いまは水がなくなってしまいました。断流といって、ひどい年は1年のうち7か月も海まで水がとどかない。河口から700kmも干上がったんです。

もうひとつのプレッシャーは、食肉需要の増加です。経済成長とともに所得があがり、肉を食べる量が増える。牛肉を1kgつくるためには穀類が約12kg必要です。ブタ肉は7~8kg、鶏は5kg、卵だと2kgくらい、というように、肉は実は穀類の姿が変わったものなんです。

このまま中国の人口が増え続けると、2020年代には中国の穀物需要量はいまの2倍になるかもしれない、そのときはたして耐えられるだろうか、と、レスター・ブラウンは『誰が中国を養うのか』という本に書きました。そうしたら今度は中国の学者が『誰がアメリカを養うか』という本を書いた。アメリカ人は中国人の何倍も食っている、そっちのほうがよっぽどひどい、と。確かにそのとおりですが、いずれにしても食糧は中国の大きな問題でしょう。

●中国の水問題

それから水資源です。中国の水需要はこのまま増え続けると、202年にはいまの2倍以上になるでしょう。すでに黄河は涸れてしまった。地下水も減っています。北京から内蒙古とか山西

省にかけて、ひどいところでは年間1mから1.5m地下水水位が下がっています。水問題が中国の破綻の引き金をひくのではないかというおそれが強まっています。

中国ももちろんいろいろな手を打っています。森林保護、退耕還林を大々的に打ち出して、205年までを3期にわけて、201年までの短期計画で今の14%から19%に森林を拡大する。2030年までの中期では24%、205年までの長期では26%まで森林を増やすとしています。うまくいくかどうかはわかりませんが、そうしないと中国は破綻してしまうという危機感には確かに伝わってきます。

隣国が13億の人口を抱え、高度経済成長を続けている。そこでなんらかの破綻があれば大量の難民が発生するという危うい状態にあって、私たちはどう支えていくのか。

しかも私たちは忘れるのが得意な民族ですが、50年前、60年前にあの国にどうしたのか。

●日本の問題と責任

アジアに対して過去を清算したのかということです。南京の虐殺でも、あ

れは2~3千人殺しただけだとか、いや30万人だ、50万人だといろいろな説があります。あるいはいまでも、シンガポールとかインドネシアなどで畑から人骨が出てきて、日本人がやったということになるのは、私たちが歴史を清算していないからです。

ソウルの街の中心に大きな浮きぼりがあって、日本兵が赤ちゃんを銃剣で突き刺している絵とかがあります。誇張もあるんじゃないかとも思うけれども、ただわれわれは韓国にきちんと過去を清算していない。

今日の環境の破綻はわれわれにも責任があります。韓国は植林に成功しましたが、北朝鮮で近年になって干ばつ、洪水の被害が続いているのは明らかに森林がないためです。そういうわけで私たちはやはりアジアに責任があると思います。

いま私たちが中国をはじめとしてアジアに対して負う責任とは、おそらく若い世代にとっては頭を下げることも、彼らと一っしょに、アジアの環境を少しでもよくすることであり、それが日本の環境を支えることにも繋がってくるのだと思います。

参加者アンケートから

●すぐくおもしろかったです。なんか始めないといけないと感じた。では、なにをすればいいのか。考えさせられた。大きなことはできない。日常的には誰でもできることはあるはず。コツコツと見えない力で、がんばっていきたい。(20歳、男、学生)

●スライドで峨眉山の酸性雨の写真や、黄河のかれてしまった様子を見て、とても危機感を感じたのと同時に、日本がアジア諸国の森林をどれだけ破壊してきたのかをもっと日本国内で声を大きくして主張していかなければならないなと思いました。(22歳、女、学生)

●中国の環境問題が、日本、ひいては世界に大きなインパクトを与えてしまうことがよくわかりました。自分の国内の山すら守れないのに他国を助けるなんて、少し傲慢なのでは、と思っていましたが、どちらも大切で、しかも

他国の森を守ることが自分の国、すべての国を守ることにつながるということに気づくことができよかったです。(18歳、女、学生)

●きちっと順序立てて話してくださって、とても分かりやすかったです。石さんだからこそ聞けるお話だったと思います。経済と環境、政治と環境の関わりについてのお話をもう少ししていただきかったです。(20歳、女、学生)

●非常に中国の環境問題が日本に大きくかわりがあるのがよくわかった。若年層・女性の関心の高さが認識できた(参加者が多かった)。(44歳、男、会社員)

●繁栄と環境、文明と森等のかかわりあいの重要性というものが、中国を例によくわかりました。地球環境の保全のため、1人ひとりが行動する必要があると痛感するとともに、できる支援をおこないたいと思った。(会社員)

2001年春の黄土高原ワーキングツアー

21世紀最初のGENの黄土高原ワーキングツアー。春にむけて動き出したばかりの黄土色の大地で、村の人たちといっしょに木を植えませんか。

村での植樹作業や交流のほか、霊丘自然植物園、カササギの森などを訪ねる予定です。

●日程：2001年3月25日（日）～4月1日（日）

●費用：一般＝17万円、学生＝16万円（国際航空運賃、中国国内での交通費／食費／宿泊費、ビザ取得手数料、GEN年会費ふくむ）

料、GEN年会費ふくむ）

※中国国際航空利用 ※関西国際空港発着 ※成田空港利用の場合、2万円（航空運賃の差額）高くなります。※北京もしくは大同で合流ご希望の方はご相談ください。

●定員：30名

●締め切り：2月25日（最近はずぐ定員になります。お早めに申し込んでください）。

【スケジュール案】

3月25日 午後出発。夕刻、北京着。

夜行列車で大同へ。

26日早朝、大同着。三嶺村、懸空寺をへて霊丘県へ。

27日霊丘自然植物園で作業。

28日小学校付属果樹園で作業。村の農家でホームステイ。

29日大同県“カササギの森”で作業。地球環境林センター泊。

30日雲崗の石窟、万人坑見学。センターで作業。夜行列車で北京へ。

31日早朝、北京着。終日北京観光。松鶴大酒店泊。

4月1日午前北京発。午後帰着。

“カササギの森”にご参加ください！

2000年秋に動き出した“カササギの森”は、今春からいよいよ実際に植樹がはじまります。まずはワーキングツアーの参加者が、“カササギの森”で植樹作業をする一番乗りです。

大同事務所は、従来のプロジェクトではできなかった草を茂らせてから木を植えるといったやり方をはじめ、南部の霊丘県から自然林の種子を持ってきて育ててみるなど、いろいろなことを試すことができるとはりきっています。

“カササギの森”が位置する大同県聚楽郷は、大同市の中心部から車で約

30分と交通も便利で、ツアーの際にかならず訪れることができます。“カササギの森”協力者やリピーターの方には、いっそうツアーを楽しんでいただけることでしょう。

2001年1月15日までに、19団体・個人から25h分のご協力をいただきました。1人でも多くの方のご協力をお願いいたします。

●“カササギの森”協力方法

・1口5万円単位（1haあたりの苗木代、労賃、5年間の管理費など）で、「カササギの森」と明記して右記の口座あてにお送りく

ださい。

郵便振替 00940-2-128465

加入者名 緑の地球ネットワーク

“カササギの森”に参加すると……

- ・記念のため現地に協力者の氏名を書き入れます。
- ・協力者証をお送りします。
- ・成育状況を5年間写真で報告します。



お詫びと訂正

会報『緑の地球』76号の記事にあやまりがありました。6ページの「ワーキングツアー」欄の正しい内容は次のとおりです。お詫びして訂正いたします。

●ワーキングツアー●

毎年春と夏のGENのツアーに加え、協力団体が派遣する独自の団もあり、大同を訪ねた人は1歳半から82歳までのべ980人になりました。

参加者の感想をご紹介します。

▼この旅は緑化協力なんていう大げさな名より、農村体験ツアーだ。観

光だけではわからない中国が見れた。

▼想像してたのと全然違った。日本人がわっときて、日本人だけでやるのじゃない。中国の人が植えてるののバックアップで、どうしたらいいか現地の人と話をしながら緑化していくのがいい。▼最初、『50年、100年後のために木を植える』という話を聞いた。すぐに成果を求める私にとって、頭をガツーンとやられるような話だった。▼帰ってから自分が何をすべきかずっと考えていたが、実行にお金がかかったり、非現実的な答えしか思いつかなかった。そんなとき、「大きいことをしてほしいのではない。みなさんがここで見て

感じたことを、回りの人に伝えてほしい」という青年団の人の言葉を思いだした。そのときはたったそれだけ、と思ったけど、いま、これが自分が環境問題とかかわるスタートラインだと思う。▼この旅で出会った中国の朋友が、あれほどの困難の中で、たくましく前を向いて生きていること。ねばり強く、緑化に、地球の病に最前線ととりくんでいることは、決して忘れてはならないと思う。▼便利で、物がいっぱいあふれていて、文句ばかり言っている日本の君！一度中国へ来て、村の人たちと木を植えてみましょう!!



六甲奨学金基金のための 第4回古本市

(財)神戸学生青年センターがアジアからの留学生を対象に続けている「六甲奨学金基金」の一部にするための、第4回古本市で販売する古本を集めます。下記の事項にご留意のうえ、ご家庭でご不要の本をお寄せください。

また、3月15日から5月15日までの古本市期間中のボランティアスタッフも募集中。詳しくは下記まで。

●本を送るときの注意事項

※汚れ、破れのひどいものは×。

※ジャンル不問（絵本・マンガ・洋書可）。辞書大歓迎。ただし、雑誌・教科書・参考書・コンピュータ解説書・百科事典は×。

※3月1日から3月31日の間に（期間厳守）、送るか直接ご持参ください。

送料はご負担願います。

※本の返却・価格指定はできません。

※販売時に使用する手さげ紙袋も集めています。

- 送り先・問合せ先：(財)神戸学生青年センター古本市係（〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 TEL. 078-851-2760FAX. 078-821-5878ホームページ <http://www.hyogo-iic.ne.jp/~rokko/> e-mail: rokko@po.hyogo-iic.ne.jp）

森林講座・冬の編

有機農業をつうじて阪神間の都市住民と交流をつづけている市島町の山林で森林作業を体験し、森の中を歩いて、21世紀の日本の森を考えてみませんか。

- 日時：3月3日（土）～4日（日）

●場所：兵庫県氷上郡市島町妙高山および周辺の山林

●宿舎：市島町立神池寺会館

●参加費：8,400円（宿泊費、食費、保険等）

●問合せ・申込み：神戸学生青年セン

ター（〒657-0064神戸市灘区山田町3-1-1 TEL. 078-851-2760FAX. 078-821-5878-mail: green-w@po.hyogo-iic.ne.jp）

編集後記

石弘之さんの講演会はおかげさまで盛況で、アンケートにもたくさんの方にご協力いただきました。少し気になったのが、「現状はわかったけれどどうしたらいいのか話してほしかった」と書いた若い人が何人かいたことです。

この疑問に「こうしなさい!」という正解はありません。ある意味では個人の生き方の根本と関わることでありますから。安易に他人に答えをもとめるのではなく、自分で考えながら答えを探るところから、環境問題への取り組みははじまるのだと思います。

1月7日のワン・ワールド・フェスでは、たくさんの学生ボランティアスタッフが元気に活躍していました。自分で動いて、模索している若い人たちに会えて、頼もしく感じました。(東川)